

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472200308
法人名	医療法人 福島会
事業所名	グループホーム あさひ
所在地 (電話番号)	三重郡朝日町小向2064-1 (電話) 0594-25-1818
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 8 月 6 日(月)

【情報提供票より】 (H19年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16人, 非常勤 11人, 常勤換算	9.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造鋼板葺平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000~42,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円
敷 金	(有) 50,000 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	16 名	男性 2 名	女性 14 名
要介護1	7 名	要介護2	2 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 71 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桑名病院 ういち歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の前も後ろも田んぼで、現在稲の緑の葉っぱがいっぱいで非常にきれいである。道路や電車の線路からも少し離れており静かな新興住宅地であり田園地帯でもある。南面は芝生の広い庭であり、雑草が少し気になるが利用者みなさんの畑があり、静かでゆったりとした生活を感じさせる平屋の一軒家である。内部は木の匂いがいっぱいの造りで、利用者や職員が集まる共有空間は食堂と台所が一体になっており、食事の準備や調理の時間が楽しいコミュニケーションの時間になっている。運営推進会議も毎月行われており、地域との連携・交流もできつつある

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回調査の改善課題であった定期健康診断については、協力病院との話し合いで、本年度は来月実施の予定であるし、また金銭出納の記載については、分かりやすく改善されていた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者はじめ職員は自己評価の意義、目的をよく理解し、種々改善にも取り組んでいるが、事業所全体のケアに活かすためにも、評価の一連の過程を全職員で取り組まれることを期待する。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 昨年4月から毎月1回相談員の初回時に運営推進会議を開催している。1回当たりの時間は30分と短く、利用者との話し合いの様子を見てもらおう程度になっている。ホームは地域で唯一の認知症対応事業所であるということを念頭に、会議での意見をホームのサービスの向上に活かすと同時に、ホームを中心とした地域づくりをして行っていただきたい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご意見箱を置いたり、家族の面会時に意見を吸い上げる努力をしているし、運営推進会議でも意見の吸い上げを行っているが、家族の意見は少ない。家族との意思の疎通を少しでも良くするため情報誌「ゆたか」の発行回数を増やす計画があるので期待したい。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会や老人会に加入していないが、近所の人とは挨拶や野菜をもらったりの普段の交流が出来てきている。しかし更なる交流のためにも自治会や老人会との交流は必要で、その意味でも運営推進会議のメンバーになっていただくのも一つの方法であると考えている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくりと、楽しく、家族のように」を理念として掲げており、職員や他の利用者とはたかひ関係が築けるホームを目指している。	○	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、「地域との関係性」が重視されるようになってきているので、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容の理念としてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月行うケア会議でも、理念を念頭に話し合いをしており、意思統一も図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加したり、近所の方とは挨拶や野菜をもらったりの普段の交流もあるが、自治会や老人会へは参加していない。	○	地域の催物も、声のかかるのを待つのではなく、積極的に出掛けることも必要で、そのための情報源として自治会や老人会への参加もお願いしたい。その意味で運営推進会議のメンバーに自治会や老人会の方に入っていただくのも一つの方法である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の指摘事項については職員全員で改善に取り組んでいるし、自己評価への取り組みも、管理者は積極的に職員を巻き込んでいる。	○	評価を事業所全体のケアに活かすことが大切であり、評価の一連の過程を職員全員で取り組まれることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年4月から短時間(30分程度)ではあるが、毎月運営推進会議を開催している。	○	運営推進会議は事業所の実情やケアサービスの取組状況の報告ばかりでなく、参加メンバーからの質問や意見や要望が気軽に出るようなテーマづくりもされ、開催は2ヶ月に1回程度でよく、出席者全員に有意義な会議となるよう配慮されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	管理者は市の担当者と気軽に行き来できる関係作りをしており、困難事例の相談等もしている。	○	事業所は地域の中でも認知症ケアの拠点であるので、それを生かした地域貢献や事業を行っていく上での課題解決にも行政の理解や支援を必要とするなことが多く、更なる積極的な行政との連携をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会時に日常の様子の報告をしているし、毎月の金銭関係の報告に合わせて、日々の暮らし振りの様子の写真等を家族に送っている。	○	現在、季刊の情報誌「ゆたか」の内容の充実を含め、発行回数を増やしていくことも検討している。
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の面会時の会話の中から意見の吸い上げをしているし、「苦情箱」も設置している。また運営推進会議の席での家族意見の吸い上げも行っている。	○	努力はしているが家族からの意見が少ないのが現状である。「何か意見はありませんか？」ではなく、「○○についてご意見お願いします」と具体的に質問するほうが意見は出やすいと考える。
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	事業所として利用者と職員の馴染みの関係づくりを重視しており、管理者は職員が離職しないようカウンセリングや相談にも応じている。またユニット間の異動もしないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修情報は入っており、必要に応じ順番に受講できるようになっている。	○	職員個々の育成計画に基づく研修計画になっていない。今後は育成計画を立て研修の機会を増やす方向で検討されており、期待したい。
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム連絡協議会にも加入しており、勉強会があれば参加しているが、相互訪問とかの協力関係の取り組みはない。	○	地域内のグループホームはここ1ヶ所であるので、隣町のホームや他介護施設との交流を持つことが検討されている。ぜひ前向きに取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	泊まりはないがデイサービスの体験入所が出来る仕組みになっており、本人の安心と納得を大切にされた支援(シームレスケア)を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に暮らし家事やレクなどでも、お互いに相手の思いが分かるようになり、教えてもらったり、いたわってもらったり、励ましてもらったり、時には癒される関係も出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中で、できるだけ一人ひとりの本人の思いや希望を把握しようと努力している。また希望や思いを自分から話さない利用者には、家族の意向も交えながら本人本位に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の利用者本人や家族の気持ちの聞き取りから、月1回のカンファレンス会議で職員全員で意見を出し合い、介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化がある場合の随時の見直しはもちろん、安定している人でも3ヶ月に1回はチェックしており、職員全員で介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の体調に応じ、家族と相談しながら、花見やハイキング、買物等、その時々々の要望に応じ柔軟に対応している。	○	「多機能性」という言葉を難しく考えないで、事業所の持つ人材・設備という資源・機能を活かした取り組みを、検討されることを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人の希望のかかりつけ医としており、かかりつけ医とは良好な関係作りを支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた支援については、話す時期が難しく、時期が迫ってからの話し合いになることが多い。	○	終末期へ向けての支援体制づくりはしており、家族・医師・職員を交えての話し合いを行っているが、出来るだけ早い時期に意志確認書等話し合いの合意を得られることをお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを傷つけてしまわないよう、一人ひとりに応じた対応をしている。個人情報については利用者や家族が入ってこない事務室に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々々の本人の気持ちを大切に、選択肢を示し選んでもらう等、何をするにも利用者一人ひとりのペースに合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも食材屋に食材の配達を頼んでいるが、週一回は利用者みんなの希望を聞く特別メニューになっている。調理や、簡単な下ごしらえや配膳、片付けはできる人が手伝っており、みんなで食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しみにしている方が多く、午前午後とも入浴が可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特に全員に役割分担ができてるわけではないが、毎朝新聞を取りに行く人、布団を干しに行く人、洗濯物たたみは自分の仕事と言う人等、趣味の楽しみごとも含め一部のできる人には役割分担がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には喫茶店や買物に出掛けているし、遠くに出られないときは芝生の庭に出たりして外の空気を吸う工夫をしている。	○	出来るだけ外出の機会を多くしたい考えであり、すぐ近くの小学校の子どもたちとの交流も検討してほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、グループホームの前に老人ホームが建設中であり、工事中危険ということで、施錠されている。	○	11月末頃には完成の予定であり、それ以降は施錠しない方向への努力をお願いしたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年1回は避難訓練を実施しているし、火災時のマニュアルも作成している。	○	年1回種々な設定で訓練をされているが、いずれも昼間であり、職員も多数勤務している時間帯である。災害はいつ起こるかかわらず、特に夜間の災害時には職員の数も少なく、地域の協力が不可欠であり、地域と連携の下の訓練も検討されることを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材屋の栄養士がチェックしており、栄養バランスには気配り工夫している。水分は自由に飲めるようにもしてあるし、摂取量も確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、イス、畳と利用者にとって自分なりの居心地の良い場所を確保されているし、食堂と調理場が一体になっているので、調理をする職員と話しながら時間を過ごすことができる。また廊下の端に一人になれるスペースもある。天井の天窓からの日差しも柔らかであり、季節を感じる空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全て自宅で使っていた馴染みのものを持ち込んでいるし、自分の作品を部屋に飾ったり、自分で刺した刺繍のノレンをドアにつけたりと、各自が自分の部屋づくりをしている。		